

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助出動中、救命車が路面凍結のためスリップし単独事故を起こしたものの。
3. 体験した事例の中心的要素	消防署車庫前の国道は、朝とくらべ凍結した路面が解けていたためタイヤチェーンを外した状態で出場したところ、日陰部分が続く国道上で数百メートルに渡り凍結状態であったため、エンジンプレーキにより減速しながら進んでいたが、急に救命車後部が滑り出しハンドルが思うように制御出来なくなり、そのまま約20cmの歩道に乗り上げJR線路の法面に救命車の左前部が衝突したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	車庫前の路面（国道）が解けていたため、また救命車が4輪駆動車であることから、雪道での運転に過信があったことと、凍結路面に入った所でエンジンプレーキによる減速を図り走行していることから慎重さが足りなかったと思う。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

.....

1. 発生日時	平成 19 年 2 月 3 日 午前 10 時頃
2. 発生した当時の天候	雪
3. 発生した活動現場	屋外：国道上（山沿いの凍結した道路）
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故、
7. 事例体験時の活動	救助、出勤途上、 []
8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか	車両運行・部署、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[49]歳、 勤続年数[30]年、 現場経験年数[2] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[55]歳、 勤続年数[29]年、 現場経験年数[2]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 C	年齢[54]歳、 勤続年数[29]年、 現場経験年数[1]年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [複数隊の隊長]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A(救急隊)	救助出場	
経過 2	A(救急車)	スリップ事故発生	
経過 3	B(救急隊隊長)	救助工作車（出動中）に搭乗の中隊長へ事故報告	
経過 4	C(中隊長)	指令課へ事故報告し、救急隊の特命出場を要請	
経過 5	B(救急隊隊長)	所轄署へ、救急車を修理工場へ移動の依頼連絡	
経過 6	A(救急車)	修理工場へ移動・到着	
経過 7	救急隊	非番職員の迎いで帰署	
経過 8	C(中隊長)	副署長へ事故報告	
経過 9	副署長	署長へ事故報告	
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- ## ○心理・体調について

a . あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○ その他

l . その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 注意力欠如、焦り等の対策について

- | | |
|---|------|
| ・ 次の日から 3 日間、安全対策として検討会を行った。
準備を実施中に、「安全に行こう」等の掛け声をかけるようにした。 | ・ 出場 |
|---|------|

○ 装備・資機材の対策について

- | | |
|---|-----|
| ・ チェーンの脱着訓練を行う。
面に常にチェーンが接するネット一体型ゴム製の「サイルチェーン」の導入を考慮した。 | ・ 路 |
|---|-----|

○ 活動環境の対策について

- | |
|------------------------------------|
| ・ 凍結しそうな場所を検討し、出勤図面に落とし事故防止対策を取った。 |
|------------------------------------|

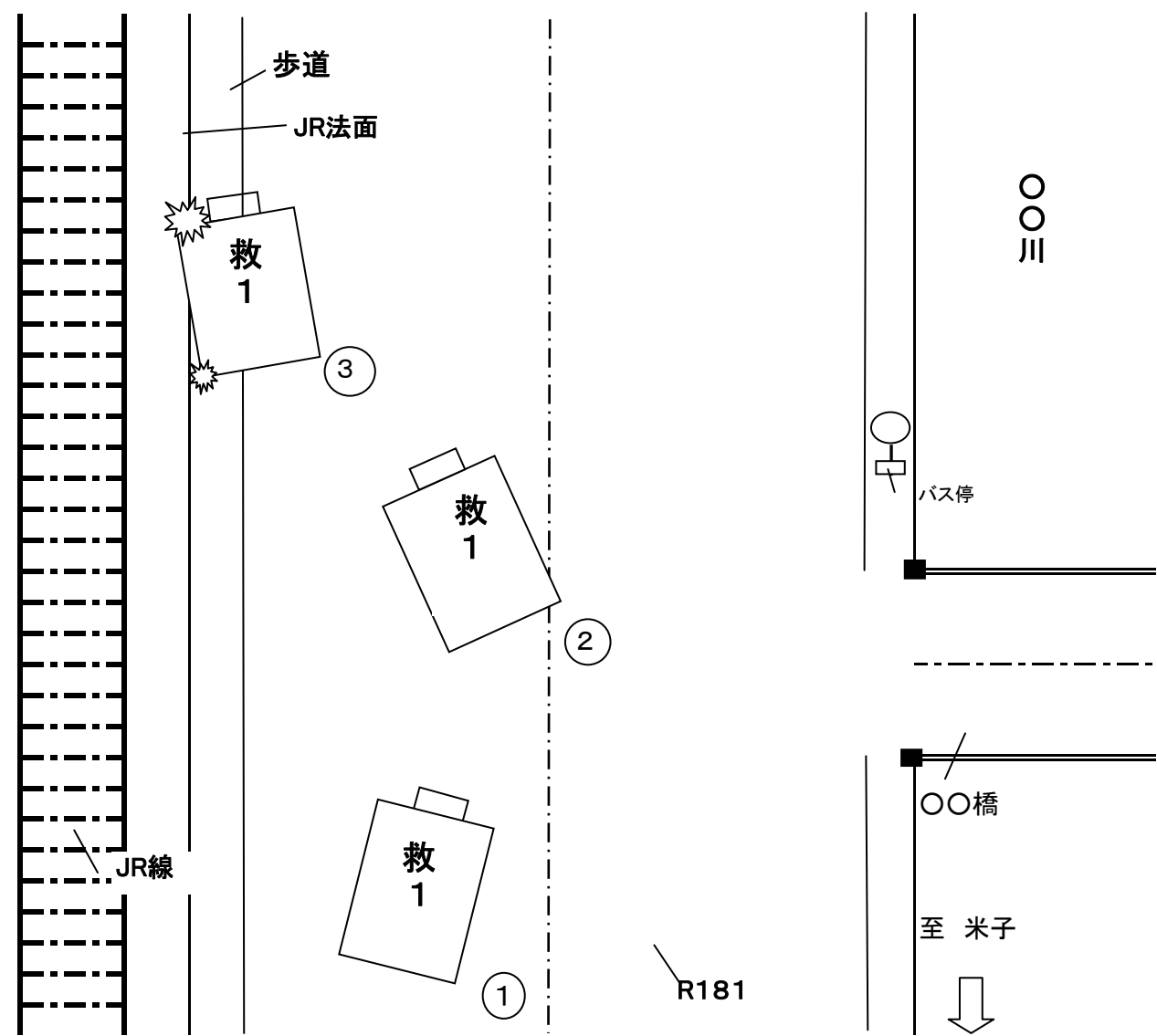
○ 指揮・情報伝達の対策について

- | | |
|--|---|
| ・ 勤務交替時に情報の伝達を行い、指揮者の指示を受ける。
副署長及び出張所長等で組織する安全関係者会議で事故再発防止に向けての対策会議を開催した。 | ・ |
|--|---|

事故見取図

平成19年2月3日
午前10時24分頃
〇〇町〇〇

〇〇町〇〇、交通救助事案出場途上、救命車がスリップし、歩道に乗り上げ、法面に衝突したもの



国道181号線〇〇橋付近